

平成29年8月16日  
国土交通省九州地方整備局  
遠賀川河川事務所

## 遠賀川流域における生態系ネットワーク形成の促進に向けた 提案をとりまとめます

### ～『遠賀川流域生態系ネットワーク検討委員会』開催～

- ・遠賀川河川事務所では、これまで河川における生物の生息・生育環境や自然再生等の河川を中心とした生態系ネットワークの形成に努めてきたが、今後は、流域全体を俯瞰した生態系ネットワーク形成する取組を検討しております。
- ・このような、流域における生態系ネットワーク形成の取組は、九州の一級河川では初めての取組となります。
- ・今回（第5回）の遠賀川流域生態系ネットワーク委員会では、これまでの検討結果を踏まえて、生態系ネットワーク形成の促進に向けた提案のとりまとめを行う予定です。

1. 開催日時：平成29年8月18日（金）14時00分～15時30分
2. 開催場所：遠賀川水辺館2階 めだかホール（直方市溝堀1丁目1-1）
3. 議事内容：遠賀川流域における生態系ネットワーク形成の促進に向けて  
（提案書のとりまとめ 等）

※概要は別紙のとおり

#### <問い合わせ先>

国土交通省 九州地方整備局 遠賀川河川事務所

電話：0949-22-1830（代表）

河川環境課長 松本 和信（内線 361）

河川環境課 専門官 米山 直貴（内線 505）

## 【遠賀川流域生態系ネットワーク形成 概要】

### ●生態系ネットワークとは

生物が生息・生育する様々な空間（森林、農地、都市内緑地・水辺、河川、海、湿地・湿原・干潟・藻場・サンゴ礁等）がつながるネットワークのことです。

生態系ネットワークの概念は、「21世紀の国土のグランドデザイン（平成10年3月）」において、国土規模での生態系ネットワーク形成を目指すことが位置づけられ、「生物多様性国家戦略2012－2020（平成24年9月）」や「国土形成計画（全国計画）平成27年8月」では、生態系ネットワーク形成の重要性や関係機関における連携の推進が掲げられています。

### ●遠賀川流域生態系ネットワーク検討委員会

本委員会は、遠賀川流域の生態系ネットワークの将来像とその実現に向けた具体的な方策を検討するため設置しました。

これまでに第4回の委員会を開催し、遠賀川流域における現状と課題などを抽出し、目指すべき基本的な考え方や目標等の検討を行い、今回の第5回において、遠賀川を基軸とした生態系ネットワーク形成の促進を図っていく上で、進むべき方向等を示した提案書を取りまとめる予定です。

#### <委員名簿>

- ・伊東 啓太郎【委員長】九州工業大学大学院工学府 教授 （環境デザイン）
- ・上田 恭一郎 北九州市立いのちのたび博物館 館長 （昆虫）
- ・牛嶋 英俊 福岡県文化財保護指導委員 （郷土史）
- ・鬼倉 徳雄 九州大学大学院農学研究院 准教授 （魚類）
- ・武石 全慈 北九州市立いのちのたび博物館 学芸員 （鳥類）
- ・永尾 正剛 北九州市立いのちのたび博物館 名誉館員 （歴史）
- ・林 博徳 九州大学大学院工学研究院環境社会部門 助教（河川工学）
- ・淵上 信好 遠賀川河川環境保全モニター （魚類）
- ・真鍋 徹 北九州市立いのちのたび博物館 自然史課長 （植物）

### ●目的

遠賀川河川事務所では、これまで河川における生物の生息・生育環境や自然再生等の河川を中心とした生態系ネットワークの形成に努めてきたが、今後は、流域全体を俯瞰した生態系ネットワーク形成する取組を検討しております。

このような、流域における生態系ネットワーク形成の取組は、九州の一級河川では初めての取組となります。

### ●今後の進め方

本委員会の提案を踏まえ、河川管理者、自治体等と一緒に取組んでいくために、新たに推進協議会を立ち上げ、取組方針をとりまとめていく予定です。

# 遠賀川流域生態系ネットワーク検討委員会の経過

## 第1回検討委員会 (H27.2.25)

### 生態系ネットワークの形成について

- (1)自然環境の現状と経年変化
- (2)保全・再生すべき環境と生物

### 生態系ネットワークの形成の推進について

- (1)推進に関する国内事例
- (2)流域自治体等の取組状況
- (3)遠賀川流域の推進計画案

- 流域の観点で議論
- 歴史・文化の視点も
- 指標種として長期的に大型鳥類、短期的に魚類
- 地域連携できる団体の抽出が必要

## 第2回検討委員会 (H28.2.22)

### 1. 遠賀川流域生態系ネットワークについて

- (1)遠賀川流域の現状と課題、遠賀川での取り組み、ネットワークの形成イメージ
- (2)検討委員会の位置づけ
- (3)ホットスポットの考え方、ホットスポット
- (4)目標(取組)の具体化
- (5)基本方針、整備内容(案)、ロードマップ(案)

- ネットワーク形成は点→線→面で広げボトムアップとする
- 直轄区間より上流域のデータも必要
- ホットスポットの質(植物の外来種等)
- 事業実施箇所のモニタリング
- 今後事業化する箇所の整理
- 地域連携先の情報が必要

## 第3回検討委員会 (H28.9.6)

### 現地調査

- (1)遠賀川本川の視察(河口砂州・干潟の視察、河口堰多自然魚道、中島自然再生事業、エコロジカルネットワーク再生事業)
- (2)遠賀川支川の視察(黒川、笹尾川、堀川、鹿毛馬川)

- ニッポンバラタナゴ等の生息環境であるワンド等が重要
- 河口砂州には海浜植物(ハマオモト)が生育
- 堀川など地域の利用の歴史、変遷も踏まえる必要がある
- 流域の観点から支川との連続性も重要

## 第4回検討委員会 (H29.2.6)

### 遠賀川流域生態系ネットワークについて(骨子)

- (1)遠賀川流域生態系ネットワーク構想の骨子(案)
- (2)整備目標、整備箇所について(河口砂州、笹尾川、エコネット浄土橋、河道掘削箇所)
- (3)流域自治体等との地域連携について(福岡県、嘉麻市、添田町)

- 生態系NWの取組には自治体等との連携が重要
- 整備・取組には順応的管理が重要

## 第5回検討委員会 (H29.8.18)

### 遠賀川における生態系ネットワーク形成の促進に向けて(提案書)

# 遠賀川流域における生態系ネットワークの形成の促進に向けて(提案書案)

## ■ 流域の現状と課題

### 流域の自然環境

- 森林施業の担い手減少による森林荒廃
- ため池や農業用水路等の湿地環境の劣化
- 宅地化等による水田等の湿地の減少

### 流域の社会環境

- 上流域を中心に人口減少、高齢化の進行
- 上流域を中心に厳しい雇用情勢
- 豊富な農作物、歴史・文化的資源の存在
- 流域における活発な住民団体の活動

### 河川の水環境

- 河川の水質は九州の中でワースト上位
- 河川に流入、投棄されるゴミの問題

### 河川における生物の生育・生息環境

- 瀬・淵、砂州、ワンド・たまり、ヨシ原の減少
- 河川の縦断的、横断的な連続性の喪失

## ■ 生態系ネットワーク形成の目標

- 石炭産業が盛んになる明治期以前の流域環境に近づけていく。
- 豊かな自然を活かし、観光振興や交流人口の増加、雇用の確保、定住化等につなげていく。

## ■ 生態系ネットワーク形成の進め方

- アユやオイカワ、ナマズ等の生態系ピラミッドの下位にある身近な生物が生息できる環境から順に整えていく「ボトムアップ方式」により生態系ピラミッドの形成を図る。
- ポテンシャルの高い拠点(点)から始め、拠点周辺に隣接する箇所を整備し、回廊(線)でつなぎ、さらに隣接する回廊をつなぐ(面)ことにより、点から線、線から面へと生態系ネットワークの形成の促進を図る。
- 生態系ネットワーク形成の促進を図ることによって得られる豊かな自然を、歴史・文化的資源と有機的につなげて、観光振興や交流人口の増加、雇用の確保、定住化等につなげていく。

### 河川における取組

- 河口域干潟の保全・再生
- 河川の縦断的連続性の再生
- 河川とその周辺の横断的連続性の再生
- 河川における湿地環境の再生
- 外来生物の駆除等

### 流域における取組

- 人の営みと自然が調和した農地環境の保全・再生
- 里地・里山における水辺のネットワーク形成
- 人の営みと自然が調和した森林環境の保全・再生
- 流域の環境を守る人材の育成
- 豊かな自然、歴史・文化的資源を活かした地域振興
- 流域における多様な主体の連携

# 遠賀川流域における生態系ネットワーク形成に向けての進め方

## 遠賀川流域生態系ネットワーク検討委員会【学識者等】H27.2.25設置

「遠賀川流域における生態系ネットワーク形成の促進に向けて(提案書)」

- ・遠賀川流域の生態系ネットワーク形成に向けて、現状と課題を整理し、今後の方向性を提案

## 遠賀川流域生態系ネットワーク推進協議会【河川管理者、自治体、学識者等】

「遠賀川流域における生態系ネットワーク形成の取組方針」

- ・委員会の提案を参考にし、河川管理者、自治体等と一緒に、取組方針をとりまとめる

フォローアップ

### 河川における取組

- 河口域干潟の保全・再生
- 河川の縦断的連続性の再生
- 河川とその周辺の横断的連続性の再生
- 河川における湿地環境の再生
- 外来生物の駆除等

※必要に応じて河川整備計画等に反映

### 流域における取組

- 人の営みと自然が調和した農地環境の保全・再生
- 里地・里山における水辺のネットワーク形成
- 人の営みと自然が調和した森林環境の保全・再生
- 流域の環境を守る人材の育成
- 豊かな自然、歴史・文化的資源を活かした地域振興
- 流域における多様な主体の連携

※必要に応じて自治体の各種計画に反映

連携

